

令和7年度1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和7年9月6日（土） 10：00～12：10
- 開催場所 栗東市立図書館 大会議室
- 出席者 國松完二、松浦透、飯村茂樹、太田久美代、大屋邦代、吉川なおみ、井上和子、
柊美樹、橋本香子、辻村章子
- 事務局 図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 0人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章唱和

会長挨拶

2、協議事項

- ① 令和6年度事業報告・評価について
- ② 令和7年度事業予定について
- ③ その他

3、閉会

（会長挨拶）

今年度になって、国の方で大きな取り上げ方をされているのが、いわゆる地域の書店が、
どんどん無くなっていることです。栗東市には地元の本屋さんがありますが、全く無い自治
体も多くなっています。書店の活性化を目指す中で、図書館にも大きな役割が期待されてい
ます。

また、デジタル化が進む中、子ども一人ひとりの感性を育てていくという意味で、本を読
むことをこれまで以上に進めていく必要があります。

そんな中で、図書館がこれから何をしていったら良いのか、ご提言をいただければと思い
ます。

2、協議事項

① 令和6年度事業報告・評価について

（会長）9つの評価項目について、皆さんの意見を踏まえて、外部評価としてまとめていく
形になります。市の方でも、これから来年度の予算編成時期でもありますので、外
部評価の意見も踏まえて、予算に反映していただきたい。

参考に、県内の貸出冊数や本の購入予算の推移をグラフにしてみました。また、昨

年度の取組みについて、プラス評価、マイナス評価として言えそうなことを、ざっとまとめています。話がしやすいようにと作ったものですので、ここに書いていることにとらわれず、忌憚のないご意見をいただけたらと思っています。

1つ目の実利用率は、去年1年間、図書館に来て、1冊でも本を借りた人を表す人数を示したものです。令和6年度は、昨年と比べると若干、利用率が上がっています。

ただ、もう少し上がってこない、令和8年度末の目標値は達成できないだろうという状況です。

(委員) 実利用率の年齢、年代別というのはデータとして、出せますか？

(会長) 市民に公表されているものは、ないと思います。子どもの登録率が増えているなど、世代が分かると評価がしやすいと思います。

(委員) 子どもの分も親が借りたら親の年代になりますか？

(会長) 個別にはそうなりますが、開館の時から、できるだけ、自分の名前で作ったカードを使ってくださいとしていたかと思います。栗東は浸透している方ではないかと思います。

(委員) おはなし会の後に本を借りていく時も、子どものカードを使う方は多いです。親のカードを使う方もゼロではないと思いますが、兄弟でも1枚ずつカードを持ってきたりしますので、割と子どものカードを使っているような気はします。

(委員) 幼稚園でもみんなカードを作りますよね？

(委員) そうですね。作らせてもらっています。

(事務局) 今年度、実利用率の数値がやや改善したというのは、移動図書館で、今までは親のカードで本を借りていたような小さい年代の子どもが、自分のカードを作って、自分のカードで本を借り始めたということが大きく影響しているのではないかと考えております。

(委員) プラスと評価できる点かと思います。

(委員) 幼稚園や小学校というのはよく分かるのですが、高齢者の年代はどれくらいでしょうか？ 高齢者がもっと図書館を利用したら良いなという思いがあります。

(事務局) 現時点では、数字としておさえておりません。

(委員) やればできますか？

(事務局) どの程度の細かさで出せるかはやってみないとわかりませんが、出すこと自体は可能かと思います。次回からの課題とさせていただけたらと思います。

(委員) この利用率というのは、おそらく、ほぼ同じ人が借りてるのだと思います。

借りる人は必ず読む、読まない人は全く読まないで、そこをどう広げていくかということをしていかないと、この利用率は上がっていかないのだろうと思うのですが、読書好きじゃない人は、なかなか読書好きにはならない。本を読まなかった人が、急に明日から図書館に行って本を読もうというふうには、多分ならないと思います。

(会長) 図書館では、感覚的にはどういう世代の人たちが多い、というようなことはわかりますか？

(事務局) 子どもが移動図書館で本を借りたことをきっかけに、家族で図書館に来て、本を借りるという流れが1つできているとは思っております。

本好きでない方が来館するという点で、成功しているのが守山の図書館だと思っており、守山では貸出も増えています。話題になっている場所、ふらっと立ち寄る場所という要素が影響しているのかなと思っています。

(委員) 食べたり飲んだりできますよね。

(委員) それは大きいと思います。涼みながらジュースを飲んで、ついでに本を借りて帰るというような流れがあります。

(事務局) 守山図書館は他の図書館に比べて、1人当たりが借りる冊数が少ないです。しっかり本を借りに来ることを目的にして来館するほかに、ふらっと立ち寄って、ちょっと気になった本を借りていくような利用があるのかなと思います。栗東でも、将来的には、裏の遊歩道で子どもが遊べるようにして、遊びながら図書館も寄ってもらえるようなことができないか、考えているところです。

飲食は、いろいろ難しいところがあります。

(委員) 本を読む場所で飲食するのは、私は賛成ではないのですが、健康運動公園もできる予定ですので、公園に寄って、図書館でちょっと涼んで、ゆっくり過ごして、本を借りて帰るという流れができれば良いと思います。

(事務局) 周囲の施設で相互に盛り上げるようなことができれば良いなと思っており、今年度は、図書館・博物館・自然観察の森の3施設連携事業として、自然観察の森の発案で、スタンプラリーを行います。

(委員) うちの職員も、『求めている資料がたくさんある図書館に行く』ということを行います。

(委員) 守山は学習施設も充実していますね。栗東は、今更広くもできないでしょうから、この施設の状態で、新しい来館者を増やすというのは、なかなか難しいですね。

(委員) 去年、西館に学習スペースができたので、そこが数字に上がってくるまで、どのぐらいなのかというところですね。

(事務局) 去年設置した西館の学習スペースは、中学校、高校にも広報にご協力いただくなどして、席の利用は着実に増えております。特に夏休み期間は、ほぼ満席というよ

うな日も出ています。

(委員) 本を借りてくれなくても来館者が増えれば、それはそれでいいんじゃないでしょうか。まず来てもらわないことには、と思います。

(事務局) 学習スペースの利用は、なかなか貸出冊数などの数値には反映はされないのですが、今まで図書館に来なかった方に図書館のことを知っていただいて、こういうスペースがある、本があるということを目にさせていただくという意味では、続けていきたいとは思っております。

(委員) まず図書館に来る率を上げるということからです。本好きにするのは難しいですから。

(会長) 中学生から大学生くらいまでは、以前から図書館の利用がありませんでしたが、最近、20代から30代前半の利用も減っています。今年から開始した、インターネットで図書館の棚にある本も予約できるのは、良い取り組みだと思います。

(委員) 30代、40代の世代にアピールするには、どうしたら良いのでしょうかね。お勤めの会社にアピールすることなども有効でしょうか。

(会長) 野洲図書館では、野洲駅前に予約本を借りられる予約本受取ボックスを置いています。駅を利用している在勤の方にアピールするというのも、ひとつの方法だと思います。

(委員) 栗東図書館も、これだけいろいろ取り組んでいるのに、自己評価が2というのは、ちょっと低いように思います。

(事務局) 自己評価の部分は、目標に対しての達成度合いを数字で見えておりますので、この評価としております。

(委員) 移動図書館は、どこに行っていますか？

(事務局) 今は公立のこども園、幼稚園、保育園を回っておりまして、隣接するひだまりの家の図書室を利用している大宝西保育園以外の、全ての公立園を回っております。これで、栗東の4、5歳児の半分ぐらいに、本をお届けができているかなという状況です。巡回先は順次増やしていきたいと思っており、今は聾話学校と話を進めております。私立の園にも回りたいたいと思っておりますが、園によって、いろいろな状況が異なると思いますので、慎重に打診を進めていきたいと思っております。

(委員) 対象としては小さい子どもでしょうか。

(委員) 高齢の方でも、多分、俳句をやっている方などは、本は好きだと思います。そういった方たちが図書館まで通えないのであれば、移動図書館を利用するということも考えられます。

(委員) 昔は、移動図書館は、巡回の時間や場所を広報に載せていたかと思いますが、今はどうされているのでしょうか。ホームページなどには出ているのでしょうか？

(事務局) 現時点では、園に行って、園に通っている子どもが使うという形なので、特に外に向けて出しているようなものはない状況です。

(委員) 昔は、日時や場所の書いたものを小学校でもらっていたように思います。もしも、その昔のスタイルになるのであれば、近隣に住む車を手放した人などが、予約をして、本を受け取ったり、返したりができます。そうなる嬉しいなと思います。

(事務局) 移動図書館が昔のものよりも小さいので、子どもを対象として、子どもの本だけを載せて動いている現状です。将来的には、図書館に来ることが難しくなった方への予約の受け渡しを何とか考えていくことが必要であると認識しています。

(委員) 図書館の取り組みとして、ターゲットを絞って、そこにプッシュしていくということは大事なことかと思います。保育園、幼稚園に行くのは、すごく良いことだと思っているのですが、例えば、保護者が来てくれる日に移動図書館で行き、保護者と一緒に子ども達が本を借り、それを図書館に返しに来てもらうような仕組みや、子育て支援活動の一環として、児童館に行くなども良いのではないのでしょうか。育休をとっている保護者は、保育園で移動図書館に触れる機会がないので、児童館も対象としては良いと思います。

(委員) それは、良い考えだと思います。園では、子どもはいつも、大好きな本を選んで見るのですが、それを家に持ち帰ってから、保護者とどんなふうに語り合っているのかは、様々です。親子で一緒に読んで、図書館にも行っている家庭もありますし、子どもだけで見て返却しているという家庭もあります。ですので、親子で一緒に本を見る時間を作る、そこに移動図書館が来るというアイデアは良いと思います。こども園では、子育て事業に力を入れていかなければいけないので、園庭開放や施設開放を、定期的に行っています。保護者さんは、どう子どもに関わっていったら良いのか、すごく悩んでおられると思うので、その1つとして、絵本とのふれあいは、良いアイデアだと思いました。

(委員) そんな取っかかりの1つとして、なごやかセンターの健診に移動図書館で出向くのも良いかと思いました。

(委員) 以前は、おはなしボランティアで、その時に合わせて、読み聞かせに行っている時期もありました。

(委員) 移動図書館で借りた本を返すために、図書館に来てもらうと、貸出までは至らなくても、図書館には本がもっとあるよということを知ってもらうきっかけになると思います。

(事務局) 移動図書館のステーションは、増やしていきたいと検討を進めているところですので、いただいたご意見を参考にしていきたいと思います。

(委員) 「学BASE」はとてもありがたいです。ここで、中学生向けの夏休みの読書感想文の書き方講座の実施なども良いのではないのでしょうか。おすすめ本や、こういうふう

に書いたら良いなどの講座は、子どもも興味をもってくれるのではないかと思います。

(委員) 読書感想文の書き方講座に長浜の図書館まで親子で行きました。親は入れず、子どもだけが入れましたが、遠くても多くの方が来られていました。本市で開催しても、参加したい人は多いのではないのでしょうか。

(事務局) 夏休み期間、去年までは、感想文におすすめの本を集めていましたが、「学 BASE」に併せて中高生向け図書のコーナーを設置したので、今年度は、一旦感想文用として本を集めることはとりやめておりました。結果、感想文の本を探す問い合わせを多くいただいた状態で、今後も試行錯誤しながら、子どもの来館につながるように取り組みたいと思います。

(会長) 幼稚園だけでなく、市内のイベントなどで、移動図書館が出向いて、貸出やおはなし会をするのも、良いのではないのでしょうか。また、例えば福祉施設などを巡回するのも、良いのではないかと思います。どういうところまで広げていけるかということを検討してもらおうと良いと思います。また、世代毎の利用状況を把握することも大切です。

項目 1 の外部評価については、実利用率自体も少し上昇しているのと、いろいろな取り組みが始まっているので、外部評価としては、「3」でよろしいのでしょうか。

(会長) 次の評価項目として、貸出冊数は、大幅に落ち込んできています。

資料費が昔に比べると相当減っており、購入している本が非常に少ない状況です。これが 5 年 10 年続くと、いつ行っても新しい本がないという声が出てきます。外部評価としても、なかなか計画通り進んだとはいえないので、評価は「2」でしょうか。

(委員) 県内の資料費の推移を見ると、上位にずっと愛荘町があります。これは町の方針なののでしょうか？

(会長) 愛荘町は町自体が、本のあるまちづくりということを町の方針として出していたかと思います。資料費が、栗東市の倍くらいあります。

(委員) 購入費の総額はずっと一緒で、1 冊の値段が高くなっていることから、購入できる冊数が少ない。予算の都合で、高額の本をやめることもありますか？

(事務局) 高額な本になるほど、購入するにあたり、利用の見込みなど、より慎重に判断するということはあります。

(会長) これは、小手先の取り組みだけでは、良くなるというものではない。外部評価としては、数字的にも達成度が低いということで、「2」にしたいと思います。

(事務局) 9 月議会で、図書館の運営について、質問をいただいています。「本が代わり映

えしないという市民からの声があるのですが、どうでしょうか」という意見もいただきました。何とか努力していく必要があると考えています。

(会長) 次の項目は、子どもの利用についての評価指標です。こちらは、いろいろな取組を行い、それなりに目標に近い形で成果が出ているという部分もあります。自己評価は、「2」となっていますが、「3」か「4」でもいいのではないのでしょうか。

(委員) 高校では、総合的な学習の授業の時間に、図書館に来て、自分の課題テーマに応じた本を借りています。授業で図書館に行くことで、放課後、図書館に寄ってくれるようになっています。

予算獲得の際には、数値が必要ですが、図書館には数値に見えないものがたくさんあり、そこを大事にすることで、来館や貸出のきっかけにつながることも多いと思います。

(委員) 移動図書館の巡回によって、子どもが、本当に興味を持って、絵本に触れていると思います。本が選べなかった子に対しても、その子が見たいと言っていた本を次の巡回で持ってきてもらい、子どもは喜んで借りていました。丁寧な関わりがとても嬉しかったようです。

(委員) 幼稚園での撮影では、移動図書館は、外せないポイントで、保護者に、子どもが本を読んでいる姿を見てほしくて、写真を撮っています。司書さんがすごく丁寧に相手してくれるから、図書館に行くのが大好きになって、「〇〇さんいる？」って、図書館に行くそうです。だから、そういう関わりも大事にして、移動図書館に来たらどんどん声をかけてほしいと思いました。

(委員) 学校図書館の研究会があると思うのですが、その辺りとの連携はどういう形でとおられますか？先日、研究会に参加したのですが、熱心な先生は、本を上手に使って授業をしたり、学校図書館の運営に力を入れたりしており、そういう方もたくさんいらっしゃるというのをその時に実感しました。そういった研究会と連携を取れると良いと思いました。

(事務局) 学校図書館は、子どもにとっては一番身近に触れられる場所で、子どもにとってはとても大事なところだと認識しています。学校司書さんには、何かあったら相談いただいているというのが現状です。

(委員) 学校図書館研究会は、高校は全県で1つのくくりですが、小・中はブロックで、例えば、栗東市の小・中学校のブロックと図書館で何か話ができれば、そういう中で何かやっていけたりすると思います。

県の「こどもとしょかん事業」でも、今年度、市内12校のうち4校は県の訪問も受けているはずで、そのあたりとも何かうまく連携できると良いと思います。

(委員) 国語の教科書で図書館に関わる単元があります。教科書にいろいろな本が紹介されていて、その本が図書館にない時もあります。図書館に行ったらこの本があると言

えたら、先生も子どもも良いと思います。全部が全部とはいかないでしょうが、図書館の本の購入の仕方の参考にもなるのではないのでしょうか。

(事務局) 検討してまいります。

(会長) 教科書に載っている作品は、ほぼ、図書館に入っていると思いますが、図書館から見た時に、必ずしも、全部が良い作品というわけではない。そういうこともあり、多分入っている、入っていないがあるのではないのでしょうか。

(会長) 若い人達の利用をできるだけ広げるという部分で、館内のフリーWi-Fi について、栗東は入っていない状況です。また、市の SNS についても、うまく使ってもらいたと思います。棚ありの本が予約できるようになったことも、積極的にアピールしてもらえれば、利用につながるのではないのでしょうか。

(委員) Wi-Fi は、セキュリティの問題で入れられないのですか。

(事務局) 決して入れないということではなく、要望、ご意見も多くいただいております、現在、検討を進めているところです。

(委員) 図書館に、Wi-Fi は必要なのでしょうか。本を読んでもほしいという気持ちもあります。

(事務局) 子どもが学校で使用しているタブレット端末を持ってきて、勉強しようとした時に、Wi-Fi がないと利用できないというところが、大きな課題だと思っています。

(委員) 施設内だと電波がつながりにくく、私たちも、読みながら調べたいことがあった時、自分の電波が繋がらないということがありますので、Wi-Fi があると助かります。

(委員) ゲームをずっとやっているような人がいなければ良いと思っています。

(会長) 外部評価としては、計画に近い形になっているので、「3」でよろしいのでしょうか。児童サービスが低下しないように継続していただくということで、まとめたいと思います。

(会長) 次の、障がい者サービスの項目について、正直目標値そのものが非常に低い状態です。法律でも、障害者差別解消法や読書バリアフリー法で、図書館に対応を求められている状況で、図書館としてどうしていくのか、考えてもらわないとならないと思います。数値的にも上がっていないので、外部評価は、「2」でまとめたいと思います。

7 番の資料費は、今後何とかして欲しいという形で、評価、意見をまとめたいと思います。

8 番の司書有資格者の割合は、令和 6 年度が 93%となっていますが、正規職員の中での資格を持っている人の割合は 100%で、非常に、評価できる事柄であると思います。それを前提に計画通りとなっておりますが、積極的な意味を含めて外部評

価値としては「4」でよろしいでしょうか。

司書のスキルアップの研修をいろいろされているようですが、職員自身が、自発的に課題を設定して、勉強していくのが大切だと思います。そういう前提で、意見の方はまとめます。

9番の郷土資料の収集冊数は、基本的運営方針の中には具体的には書かれていないですが、栗東に関する資料の収集はこの図書館でしかできない仕事です。

次のときは、重点項目として設定するなら、数値を挙げておいたほうが良いように思います。

基本は、今日の話をもとに、外部意見をまとめ、皆さんにも確認して、公表に向けて進めたいと思います。こんな視点も入れたいということがありましたら、図書館にお伝えいただければ、意見の中にも入れていきたいと思います。

② 令和7年度事業予定について

(事務局)「令和7年度事業予定」について説明

2、閉会

(館長挨拶)

いろいろなご意見をいただき、職員間で、もう一度見直す部分など、ご指摘をいただきました。これから、検討して進めたいと思います。現在のメンバーでの協議会は今回が最後となりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。